

審 議 経 過

No. 1

1. 開会

鴻上館長から挨拶 職員、自己紹介

2. 辞令書交付

委員を代表し、出雲委員へ鴻上館長から辞令書を交付

3. 委員紹介

委員、自己紹介

4. 会長・副会長選出

委員の互選により、松尾委員を会長、鈴山委員を副会長に選出

会長が議長を務めることから、松尾委員が席を移動 委員長から挨拶

5. 議題

(1) 令和3年度 事業報告について

●事務局から説明後、質疑応答

(委員) コロナ以前と比べると、市民1人あたりの貸出などの違いはどうか。

(副館長) コロナ以前の状況には戻っていない。およそ8割から9割ぐらい。

(委員) コロナ1年目と比べてはどうか。休館日もあったと思うが。

(副館長) 数字を用意している。令和元年度は年間貸出点数421千点、令和2年度が352千点。これがコロナの最初の影響が出た年。令和3年度は36万点。ちょっと回復したが、コロナ前と比べると今年度も低調でコロナ禍の前のように回復していない。

(委員) 財源が苦しい中でクラウドファンディングを実施しているが、どういうふうな経緯で実施したのか。

(副館長) ふるさと納税の仕組みを使っている。寄附金の形で伊万里市へ税を納めることができ、市外の人であれば返礼品を受け取れる。その制度を活用して実施した。ガバメントクラウドファンディングの場合は特定の事業に対して集めたお金を使うことができる制度となっている。通常の寄附であれば、伊万里市が使い道を決めることになる。ブックスタート事業へは以前から寄附が行われていたが、今回ふるさと納税の仕組みを活用して、改めて寄附を集めることにした。

(委員) 平戸市ではふるさと納税で日本一になったが、図書購入費に充てたと聞いている。

(委員) 寄附の募集を続けていくことはできるのか。

(副館長) 効果が挙げられるのは難しい。実は、市内の方が7割くらいだった。返礼品を受け取れないが、事業を支援したいという気持ちが大きかったと思う。それを二度目、三度目と繰り返してもなかなか続かないのではないだろうか。ただ、寄附自体は受け付けている。

(委員) ブックスタートは市の財源で賄えないのか。

(館長) そもそも市民主導で始まったという経緯は大きい。市民がブックスタートを勉強する中で伊万里市での必要性を示し、行政の方でも重要性を認識して市制60周年の折に事業化した。それから、市民と行政が一緒になって事業を進めてきた。寄附を元手にした事業展開の形も大事ではないかと思う。

(委員) ブックスタートの還元率(実施率)、出生数は。

(副館長) 約60%。1年間の出生数は369名で、222名に手渡している。

(委員) 絵本を受け取る有効期限はあるのか。

(副館長) コロナの状況も勘案して、1歳の誕生日までとしている。

(委員) 改善できるよう、これからも検討をお願いしたい。

(委員) 伊万里ミントカレッジの活動はどんなものだったか。

(館長) 図書館が行う学習提供事業として実施した。市の予算を使わずに実行委員会方式で市民の有志による企画で、公益財団法人の助成金を得て図書館と協働で実施した。

(委員) 家読推進事業に関連して、黒川町の取組を紹介する。おはなしどんぐりが実施しているうちどくの取組の中で、「えほんのたね」事業を展開している。電話ボックスを改修して絵本の貸出を行っている。住民の絵本の拠り所になればと思っている。

(委員) びっくりする内容である。まちづくりの場になっていると感じた。本はどのように増やしているのか。

(委員) 市民が自発的に供出してくれるほか、佐賀県の未来アシスト事業の補助を活用して、冊数を増やしている

6. 新しい取り組みについて

●館長から説明、意見交換

(委員) おはなし会で使用している「のぼりがまのおへや」はまだ利用できないのか。

(副館長) 10月と11月のおはなし会では、試しに「のぼりがまのおへや」で実施してみた。今後、暖房を入れなければならない時には換気が難しいため、洋会議室を使う予定である。

(委員) 初めて図書館に入った時に素晴らしい図書館だと感じた。子どもに対する取組も素晴らしい。学校訪問の際に、勤務校にも来てもらい指導してもらっ

た。担当の先生もありがたいと言っていたので、今後も続けてほしい。

(委員) 子ども達が自動車図書館を楽しみに待っている。また、図書館にも見学に来て「のぼりがまのおへや」でおはなしも聞かせてもらった。ぜひこのサービスを継続してほしい。

(委員) 公共図書館には「望ましい基準」というのがある。図書館法では基準を決めて公表するようになっている。伊万里の図書館はきちんと定めて運営に活かしているが、2003年に作られた図書館の運営目標値がそのままになっている。すぐできるものではないが、図書館協議会も協力して、見直すことを考えてもらいたい。

(副館長) 確かに、2003年に作られた基準のままである。もう人口も減って、社会情勢も変化していることから適切なかどうか考えているが、着手できずにいた。

(委員) すでに下敷きとなる基準はあるので、委員全員ではなく作業部会という形で図書館と一緒に数人で動き出せたらと思う。今の図書館にふさわしい目標値を定めてほしい。

(館長) 非常に大事な視点である。図書館のパートナーである図書館フレンズいまりとも協力して、進めていきたい。

7. その他

●事務局から説明

第2回は令和5年3月頃を予定

協議会の報酬、旅費は各委員の口座へ後日振り込む

8. 閉会